

今年の県内の新成人は
3万6822人

県教委は平成23年の新成人を3万6822人（男性1万8934人、女性1万7888人）と発表した。前年に比べて1394人減少。ここ3年連続して減少傾向にあるという。市町別に見ると、浜松市が最多の7553人、続いて静岡市6686

人、富士市2616人となっている。前年に比べて新成人が増えたのは10市町。湖西市75人増、富士宮市66人増、南伊豆町62人増、下田市57人増、長泉町37人増、函南町20人増、川根本町20人増など（富士宮市と湖西市は合併した旧町分を含む人数）。県内では一部地域を除く全市町が1月9日に成人式を開き、新成人の門出を祝っている。

喜びあふれる声が響く

晴天に恵まれた1月9日。新成人の門出を祝う平成23年成人式は文化会館で挙行され、新成人89人が集った。

正午過ぎ、晴れ着姿やスーツ姿の新成人が、続々と会場に姿を現し始める。

「久しぶり!」「元気があった?」。喜びあふれるいくつもの声が、同館玄関前に響き渡った。

午後1時。中学生ボランティアの鈴木龍弥君と中野志保さん（ともに中川根中）が大きな声で開式を告げる。ステージ上では新成人の小中学校時代のスライドが上映され、館内は大きな歓声に包まれた。どの顔にも、懐かしさがこみ上げていた。

中澤莊也生涯学習課長が新成人の名前を読み上げ、一人一人が立ち上がって一礼。その様子がスクリーンで上映されると、再び大きな歓声が上がった。

この後、佐藤町長、来賓の皆さんから、心のこもった祝福のメッセージが贈られた。

新成人の主張を述べた石原佑美さん（崎平）と前田美咲紀さん（上長尾）。堂々とした姿でステージに上がり、仲間や両親ら

人、富士市2616人となっ

ている。前年に比べて新成人が増えたのは10市町。湖西市75人増、富士宮市66人増、南伊豆町62人増、下田市57人増、長泉町37人増、函南町20人増、川根本町20人増など（富士宮市と湖西市は合併した旧町分を含む人数）。

県内では一部地域を除く全市町が1月9日に成人式を開き、新成人の門出を祝っている。



大池幸男
静岡県議会議員

育ててくれた人たちに感謝を
立派になった皆さんが本当に頼もしく見えます。育ててくれたご家族、地域の皆さんに、ぜひ感謝を伝えてください。私は毎年、本町の成人式に参加させてもらっています。町の皆さんが丁寧に作り上げるアットホームな雰囲気が好きだからなんです。現在、さまざまな分野で大変厳しい時代を迎えています。これから皆さんは、それぞれ違う道を歩んでいかれますが、いずれこの町で、町の活性化のために力を貸してください。

に向かつて、将来に向けた決意を述べた。式典の最後、謝辞を述べた植田淳也さん（藤川）。新成人を代表して力強い感謝の言葉を述べ、深々と頭を下げた。

また、会おう

恩師からメッセージが贈られた後、ステージには赤石太鼓保存会が登場。赤石太鼓経験者の新成人が中心となって赤石山霊竜神太鼓などの曲を披露し式典に花を添えた。館内は大きな拍手に包まれ、盛会のうちに式は幕を閉じた。

「また、会おう。」
式典後の会場内から、そんな言葉が聞こえてきた。

華やかな衣装に身を包み、晴れの門出を迎えた108人の新成人（式出席89人）
あのころも、今も、そしてこれからも
変わらぬ笑顔で明日を見つめる
新たな一步を踏み出した若者たちに
心を込めて贈る「エール」

特集2【エール】

well

【新成人たちに贈る賛歌】

静岡市で看護の勉強をしているという坂下桃子さん（藤川）。「患者さんの心に寄り添い、信頼される看護師になりたいです。今日は久々に会う友人も多く、すごくうれしいです」と話していた。

ここにも、一つの物語。
広報かわねほんちょう

1 赤石太鼓経験者が迫力のバチさばきを披露 2 終始笑顔があふれた会場内 3 見守る来場者の目も温かい 4 再会に話も弾む 5 中学生ボランティアが受付などで活躍した

INTERVIEW 新成人

新成人に現況や町の将来像について聞いた

医療に興味持ち、看護の道へ

上田英理さん

（奥泉）

浜松市の看護学校に通っています。実習などの勉強は大変ですが、患者さんと触れ合うことで充実も感じています。本町に帰ってくると、とてもリラックスできます。離れたことで、改めて大切な場所なんだと思えるようになりました。

仕事にやりがいを感じている

植田淳也さん

（藤川）

鳥田市の中部電力㈱で事務などの仕事をしています。電気は生活に欠かすことができません。人の役に立つ仕事として、とてもやりがいを感じています。この町は、緑が豊かな町です。いつまでもこの自然が残ってほしいと思います。



▲仲間と久々の語り
の言葉 ▶ 恩師から祝福
つめる目も楽しげだ

